

タウンリー Ⅱ サイクル劇 (Ⅵ)

橋 本 侃

第七演目 預言者たちノ行列

〔登場人物 モーセ、女預言者シビラ、ダビデ、ダニエル〕

モーセ 〔前口上〕 神ハ一人ノ預言者ヲ我等兄弟ノ内カラ立チ上ガラセタ。

ソノ預言者ニ耳ヲ傾ケナイ者ハ誰デモ

我等ノ民カラ追放サレルダロウ。

ドノ預言者モ生マレ故郷デハ尊敬サレナイモノダ。

(1)

イスラエルのすべての者たちよ、

わたしの言う事を聞け――

かなり良い知らせをこれから語る。

どのようにしてそうなったのか、すべての者たちがそのわけを知っている――

アダム自身とその血を継ぐ者たちすべてが

地獄へ落された。

(2)

それゆえ、神は一人の預言者を

未来において、わたしたちの兄弟の子孫の内から

立ち上がらせるだろう。

そして、その預言者の言うことを信じ、

神の道を歩み、

信じる者たちすべては、地獄から引き離されるだろう。

(3)

神の時が明け始めた時には、

神から誰も引き離されないように、

行く手をさえぎり、戦う立場をとらずにおれ。

神の言葉を聴くつもりのない者は

無法者であることが明らかにされ、

親族から追い出されるだろう。

(4)

お前たちにあらかじめ予告しておく――

くだんの預言者は優しさに溢れ、やって来ると、

多くの奇跡を見せてくれるだろう。

人はその足元に身を投げ出すだろう――

ご自身の言動の正しさを通じて、

我らを生活の苦しさから追い出してくれるからだ。

(5)

ならば、真実の道を進むつもりのすべての者を

神は救うと預言しておく――

その名を「キリスト」と付けなさい。

人は至る所で崇拜をこめて、

預言者であることを認めるであろう。

ただし、預言者自身が生まれた故郷以外の場所においてである。

(6)

若い者も年寄りも皆が皆、聞きなさい！

すべてを支配しておられる神は

わたしを通してお前たちと接してくださる。

神の戒律は十ある――

見よ、神の民であるお前たちよ、

ここにその十の戒律が目に見える。

(7)

わたしがここまで抱えてきた神の十の戒律を、

考え違えして、些細なものや、

嘘偽りである、と取らぬように気をつけよ――

今に良く分かるはずだが、

この銘板そのものに、

神は自らの手で書かれた。

(8)

この十戒を心に抱くつもりのある者なら

天国に呼び入れられるはずである――

最初に来た者から順々に。

そのつもりのない者は

地獄の苦しみへと向かい、
厳しい裁きを受なくてはなるまい。

(9)

わたしに導かれるままに事をなしなさい。

第一の戒律は、これから語る

これだ――

木切れや石で神を造らず、

昼と夜とを二つながら造った

たった一人の神だけを信じよ。

(10)

もう一つの戒律は、誓言をしないように命じるもの――

墮落した物を手に入れ、人に危害を加えることになるのだったら、

神の名前を唱えて、事実をゆがめてはならない。

もしも悪意を持って誓うのならば、

あなたが大いに非難されるのにふさわしいことを

十二分にわきまえておけ。

(11)

第三番目のものは、聖日を良く守り、心をこめて、奉仕することで、神を喜ばせよ。数えて第四番目の戒律は、

自分の父母を敬え、

貧しい時も健康である時も。

(12)

第五番目のものは、

姦通でなく、配偶者としてめとり、

正しい生き方をせよ。

第六番目のものは、人を殺す者になるな――

黄金のためにでも、報酬のためにでも、

愛のためにでも、憎しみのためにも。

(13)

第七番目のものが命じるのは、心決めて

物の数量の多少にかかわらず、

盗みや略奪に出掛けたりするな。

第八番目のものは、年寄りにも若者にも両方に命じている、

舌は真実を語り、
偽りの証言をしないように、と。

(14)

第九番目のものを守ることに命を懸けるように命じている、
隣の人の妻も
隣人の所有物である娘も、自分のものにしようと望むな。
第十番目のものは命じている、どのような場合であれ、
隣人が所有している物を間違っても欲しがるな。
以上のように事をなし、し損なうことのないようにせよ。

(15)

わたしこそが神から選ばれた者で、
平和の十戒を
シナイ山で得た。
言っておく、今語った言葉は、それ以下でも、それ以上でもない、そのものずばりだ。
わたしの名前はモーセと呼ばれている。
さて、これにて、「よい一日を！」と参ろう。〔退場。〕

ダビデ〔前口上〕 スベテノ王ハ彼ヲ崇メ、
スベテノ国ハ彼ニ仕エル。

(16)

耳が聞こえる者は皆、
すべてを誠実に聞け。
これから語ることを五感で受け止め、
聞き捨てにならないように気をつけ、
夜も昼も、考え続けよ――
それが真実だからだ。

(17)

知ってのとおり、わたしはエッサイの息子だ。
ダビデがわたしの正しい名前で、
王冠を頭に戴いている。

だが、お前たちは非難されるべきだ、
と言うわたしの言葉を信じなさい。
猛々しくも大人しいイスラエルに
わたしの力が及んでいるかぎりは。

(18)

天の神がわたしに知恵を与えてくれたので、
歌を一つこれから歌ってあげよう

この楽器を伴奏にして。

記憶の糸口を作っておいて、

歌詞を覚えてしまいなさい――

それはことごとくに預言されているからだ。

(19)

すべての人に音楽の喜びを与えよう

この十本の指で弾く竖琴で。

そして、わたしの歌で心楽しくなることをあらかじめ告げておこう――

なぜなら、天と地と、

ご自分の手でアダムとお造りになった神が

息子を地上に遣わすからだ。

(20)

神は天の塔から降りてこられるだろう、

人間を救い、

自分を見失ってしまった者を救うために。

わたしが豎琴で曲を奏で、

神が人間の体を取るようになることを歌おう――

このように前もって、語っておく。

(21)

さあ、神は再び急いで天に向かうであろう

強い力のある巨人として、

一番の高みまで。

王だろうが召使だろうが、

彼の姿を隠せるものは何もなく、

キリストの怒りから隠れられるものはなにもない。

(22)

神は主であり、すべての者の王である。

その両足が王たちを倒すまで

神に向かつて、はっきりと奉獻するように。

あの芳しい花が祝福されるように。

その花が地上に到着すれば、わたしたちを救う――

わたしたちは喜んでいいのだ！

(23)

人々は高価な贈物をキリストのところへ持ってきて、
膝を屈し、

捧げ物とするだろう。

その幼い王に良いことがありますように！

幼子を目にするまで生きられる人は幸せだ。

生き永らえて、その姿を見ることが出来ますように！

(24)

人々はその方であることを聖なる印である十字架によって知ることができる。

喜びと愛らしさというのがキリストの本分である――

それを一番愛することになるう。

その時、闇に光が生まれるであらう、

学問のある人もない人にも、双方にとって、

霊は義によって命となる。

(25)

それゆえ、皇帝も王も、

金持ちも貧乏人も、年寄りも若者も、

〈右十九〉

あなたの楽器の音を調整しておくように、

王が地上へ降りてこられるよりも前に、

牢獄から我らを解き放し

我らすべてを自由にするために。

(26)

主ヨ、アナタノ慈シミヲ我ラニ示シ、

我ラヲ救イクダサイ。

主よ、あなたの慈しみをわたしたちにお示してください、

なぜなら、あなたがいらっしゃるまで人々は地獄に閉じ込められ、

外へは逃れ出ることができません。

主よ、ご意志を果たすのはいつのことですか――

あなたの救いと癒しをわたしたちに施してください、

あなたを我らは皆、お待ちしているのです。

(27)

さあ、今、あなた方のために一つの歌を歌った。

わたしが力を込めて語った

今の歌をあなたの心にちゃんと仕舞ったか確かめてください。

自らの知恵で我らすべてを造られた方は

地獄の苦しみから我らすべてをお守りになり、

我らに天の光をお与えになりますように！

(28)

女預言者シビラ〔前口上〕審判ノ印ガ現レルト、大地ハ湿リ、

未来ノ王ガ、スベテノ永遠ナルモノノ栄光ノ内ニ来ル。

ツマリ、地ヲ裁ケルヨウニ肉体ヲ備エテ存在スル。

嬉しい知らせを耳にしたいと思う人は誰でも

この世界すべてを造った方について知りたい人は、

わたしの語ることを頭を使いながら聞きなさい。

賢者シビラというのがわたしの名前です。

わたしの語ることを聞かないのなら、あなたたちは非難されます――

わたしの言葉が預言だからです。

(29)

すべての人はアダムの罪により殺され、

悪魔に惑わされて、

終わることのない地獄の苦しみに追いやられた。

新しい王が天から降りてきて、

その権利を勝ち取るために悪魔と戦う。

そのように王の慈しみはありがたいものです。

(30)

王は全世界を裁き、

それまで王に仕えてきた者たちを喜ばせ、

心からの喜びが彼らに沸き起こるでしょう。

すべての人は王を自分の目で見ることになります、

金持ちも貧乏人も、身分の低いものも高いものも。

王の姿を誰も隠せない。

(31)

だが、人間の備えた肉体のままで立ち上がるでしょう。

その同じ裁きにたいして、

誰もが震えおののき、恐ろしきで震えるでしょう。

多くの人たちが、王の聖者たちと一緒に

来ることになっているその王が、

血と肉を備えていることを見せてくれるでしょう。

(32)

王の前に立つ者はすべて、

身分の上下に関わらず、誰でも彼でも、

同一年齢となるでしょう。

その時、天使は恐怖のために打ち震え、

火炎は大地とその上にあるものすべてを、つまり、

この中世界を燃やすでしょう。

(33)

ここ地上では何も知らされることはないでしょうが、

すべての水と海は

散り散りにされ、燃やされるでしょう。

その後で、岡も谷も、大きいのも小さいのも

一緒に並行して走り、

すべてが平らになるでしょう。

(34)

キリストが到来する時にはトランペットが吹かれるでしょう、

それで人はキリストの来臨を知ることができるのです。

〈左十九〉

その音調はとても悲しさがいっぱいのもとなります。

持っているすべての知恵を働かせても、いくら信仰がしっかりしていると、その楽器が打ち震えなければ、それを耳にする人は誰もいない。

(35)

その後、地獄が大きく口を開け、歯をむき出しにするでしょう、そうすることで、人は地獄の中で、その高等裁判所が自分たちをどのように裁くかを知ることができます。

悪をなした者は地獄へ、

その他の者たちは天国へ、行かなくてはならない——これが法に合う正しさであるとされています。

(36)

それゆえ、わたしが思うに、同じ人物が可能な限り旨く、

罪と悪事から身を処すことができますのです。

これでわたしは預言を語り終えました。

神が老いも若きもあなた方皆を救われ、

必要な時にあなたがたを助けてくださいますように願います。

(37)

ダニエル〔前口上〕至聖ノ方ガ来ル時ニハ、アナタノ塗油用ノ油ハ足りナクナルデアロウ。

アダムとイブをお造りになった神よ、

二人が良くしている間は、樂園に留まることを

神は許されていた。

間もなく、あの林檎を食べた時、

直ぐに罪をとがめられ、

地獄の苦しみへと放り込まれ、

(38)

いつも新しく襲う悲しみと苦しみを経ることになった。

それゆえ、神は我らを創造したことを悔やみ、

自分の息子を地上に遣わし、

人間の肉体を備えることになった。

それはすべて我らの罪を正そうとする――

我らのためである。

(39)

肉は肉によって購われるであらう、

彼が創造したものを彼自らの手で

失うことのないよう。

一人の乙女から彼は生まれた。

終わりなく、永遠に。

見捨てられた者すべてを救うことになるであろう。

「ココニ、「預言者たち」が終わり、「ファラオ」が始まる。」

第八演目 ファラオ

〈右二十一〉

〔登場人物 ファラオ、騎士一、騎士二、モーセ、神、少年一、少年二〕

(1)

ファラオ 静かにせよ、少しでも動けば罰する！ 誰も過ぎ越すことのない苦しみ、

わしが命じる行程をたどり、

良く注意をすべきである。

その手の中に、お前たちの健康をすべて握る者を託している。

なぜなら、ファラオ王はわしの父であり、

この土地の支配権を手になっていた。

年齢が必要としていっているとおり、わしが彼の世継ぎである。

至る所で、動いたり、立ち止まったりしているが、しかるべき場合に常にある。

すべてのエジプトはわたし自身のものであり、

わしの法律に従って支配する。

わしの力が知られ、

それが当然のことではあるが、うやまられるように願う！

(2)

わしの言う言葉を聴かない者は、

ずうっと下まで投げ落とされ、

首を高々と吊られ、四肢を馬に引き千切らせてやる。

それゆえ、自慢話をたらたら言うな。

(3)

だが、わしは王の資格として、この帝国のすべての人民にたいして

静粛を命じる。

わしの望むようにするのでなければ

誰も仕事に精を出すな、と注意と与える。

そして、言葉を発するのを止めるよう気をつけ、
支配者であるわしの言うことに注意を向けるように。
そうすれば、お前たちの満足はこの上なく高まる。

だから、命と体を、このわしの思うままにまかせろ。

(4)

騎士一 我が主よ、もしもここにいる者で

ご意思に力を尽くすつもりがない者がいたら、

そのような奴らの傍に近づけたら、

そいつらを直ぐにでも殺してやりましょう。

(5)

ファラオ わしの帝国内にいるかどうか、

わしに告げてくれる者がいれば感謝できる、

わしの権力を打ち倒すつもり

大変な呪われ者かどうかを知りたいものよ。

騎士二 我が主よ、あなたには偉大なワザを使う、

我々の間にも部族がありだ。

ゴッシェンにおいて勝利を勝ち得たユダヤ人たちは

イスラエルの子供たちと呼ばれています。

子孫の数は急激に増え、

これが確かだと思うのですが――

これから永遠に増え続け、

陛下を破滅させてしまうでしょう。

(6)

ファラオ 奴らはなぜ、どのように、そんな悪戯を始めたのか？

そんな恐ろしい事ができる力を持っているのか？

騎士一 主よ、そのとおりです、あなたの父君のファラオ王の日々に、

奴らが非常に獰猛であることが見て取れました。

ヤコブの息子のヨセフの子孫です――

ヤコブは賞賛に値する王でしたが、

その後、人口数は上昇し続け、

今のようになって、あなたの掟を破壊しそうにまわっています。

一日も早く人口増加を止めさせないと

あなたを権力の座から完全に引きずり下ろすつもりです。

ファラオ 一体全体、奴らの意図は何か、

そんなに急激に人の数を増やすのは？

(7)

騎士二　どのようにしたら、そのようにたくさんに増えるのか我らは知っています、

我らの父祖たちが理解していたと同じように。

奴らはたったの七十人しかいませんでした、

最初にこの国に入ってきた時には。

その後、ゴッシェンにおいて逗留していました――、

四百回の冬を過ごすことを請け合います。

今や、奴らは強力な男たちを数多く抱え、

三十万以上になっており、

女と子ども、

あるいは、羊の群れを世話する羊飼いを除いても、です。

ファラオ　今まではだまされたが、

これからはそうはさせぬぞ。

(8)

これ以上、奴らの数を増やさせないように

奴らの数を激減させてやる。

騎士一 主よ、我らの父祖と、読み書きが良くできる

学者たちが言うのを聞いたことがあります――

我らの間に一人の男が歩き回り、

我らの言行を壊滅するであろう、と。

ファラオ そんな奴がなんだ、地獄の悪魔にくれてやれ！

そのような運命になろうとも我らは恐れはしない。

そんな奴らは取り上げ婆に殺させてやろう、

ヘブライ人が産まれるたびに、

すべての男子を殺させてやろう。

そうすれば、直ぐに滅ぼしてやることができる。

(9)

それに、我らの父祖たちを畏れなどしていない――、

奴らを奴隷にして、

墓穴を掘らせ、棺桶を運ばせ、

不愉快な事をすべて引き受けるとは、もともと頼んでいなかった。

それゆえ、これらの餓鬼どもには掟を守らせよう、

奴隷の生活を生涯送らせるように。

騎士二 さても、只今は巧妙なお言葉でした。

かくして、奴らの民族をこれ以上は増えさせません。

ファラオ さあ、奴らが仕事をするのを手助けしろ。

この目にたくらみが触れることにならないように気をつけよ。

騎士一 主よ、すべての用意を整えましょう、

奴らを強制的に奴隷としましょう。〔ココデ、もーせガ手ニ杖ヲ携エテ登場。〕

(10)

モーセ この世界のすべてを始められ、

取り扱い良く定めた偉大な神は、

このわたしモーセを男として生ませ、

その後、わたしを海からお救いになられた。

その時、ファラオ王が命じていた――

男の赤子は救ってはならない、と。

王の意思に逆らって、わしはそこから立ち去った。

このようにして、神はわしのために力をお示しになった。

今は、定住して

このシナイ山のふもとで

義父の主教エテロの羊の世話をしている、
より善いことが起こるまで。

(11)

ああ、主よ、あなたの力は偉大だ！
あの不思議さが誰に分かるだろうか。
向こうに不思議な光景が見える、
あのような不思議さは世界中探しても見られない。
芝が非常に明るく燃えるのが見えるが、
葉は緑のままだ。

もしこれがこの世の人の仕業であるのなら、
疑いもなく、行って確かめてやろう。

神 モーセよ、モーセ！〔ココデ、彼が柴ノ所へ急ギ行クト、神が彼ニ言ウ、云々。〕

モーセよ、傍へ近寄ることなく、

その場所で必ず立ち止り、
わたしに耳を傾けなさい。
これから語ることに注意を向けなさい。

(12)

恐れ多い場所なので靴は両方とも脱ぎなさい――

言われたとおりにしなさい。

お前が今、立っているその場所は

確かに、聖とされる所だ。

(13)

確かに、私がお前の主であり、

わたしの好きなようにお前の命を長引かせることができる。

時に、長老たちにわたしが話しかけたことをお前は知っている。

アブラハムとイサクに

また、ヤコブが祝福されるように、と話しかけた。

そして、大人数の子孫を作るように、と。

そうすることで、かれらの種がなくならないように。

しかし、今や、エジプト王は

わたしの民を非常な速さで痛めつけている。

そのようなことを王に許していたら、

我らの子孫は直ぐになくなってしまう。

(14)

だが、わたしはそんなことをするつもりはない、
 もしも、わたしに信頼を置くのならば、

奴隷であることから先ず解き放そう。

それゆえに、急いで行くのだ――

(15)

わたしの遣い趣旨を覚えて置くように――

わたしにたいしてあのような損害を与えたファラオの所へ。

優しい言葉で語りかけなさい、

そうすることで、彼はわたしの民を過ぎ越させる、

荒野へ赴くかもしれない、

頼めば、わたしを拜む。

もしもわたしの意思に反して留まるならば

彼の歌は直ぐにも「ああ、悲しいかな！」とさせてやろう。

モーセ ああ、主よ、わたしを許してください！ あなたのお許しを得て申し上げます。

あのエジプトという民族はわたしを好んではいません。

もしも、わたしがそのようなお告げを持って帰れば

彼らはわたしを喜んで苦しめます。

(16)

良い主よ、他の何かをお試してください、例えば、——
そのエジプト民族を強引に畏れさせるお告げを。

神 モーセよ、うろたえるな。

わたしの命令を自信満々に持って行きなさい。

もしもお前が間違って捕縛されたら、

助けて、正しい道へ戻してあげよう。

モーセ 良い主よ、わたしを信頼するつもりはないでしょう、

ありとあらゆる誓いの言葉を口にしたところで。

そのような新しい事を口にすることは

悪い心を持つ民に対して、

真の印がなければ、

そのようなものに気を向けるつもりなどないでしょう。

(17)

神 もしも王が理解するつもりがないのなら、

この新しい印を送り出そう、

お前の杖を王の目の前に放り出さない。

すると、それは一匹の蛇に姿を替えるであろう。

そうしたら、蛇の尾を再び手に取り、

心得て、手で大胆にも掴むように――

杖が見つかる場所において――

わたしの意思によって、それは姿を変えよう。

その後で、お前の手を膝に置き、

そうすれば、杖はライ病病みのようになり

傷つくことなく、再び元通りの健康な肌になる。

見よ、わたしの印はそのようなものとする！

(18)

そして、それでも許すつもりがないのなら、

わたしの民を平和のうちに過ぎ越しさせるために、

九か十の復讐を送り

わたしが止めるまでに、悲痛に嘆く者にしてやろう。

しかし、ヘブライ人たちはゴッシェンにおいて勝利を収め、

わたしの掟を良く心得ている限りは、あの時の一食分の食べ物にも

ありつけないほど苦しめられることはない。

彼らの慰めはいつも増えることだろう。

モーセ ああ、主よ、我らはあなたを良く愛すべきであること、

あなたの民をこのように自由にさせておられる。

彼らに伝えましょう

あなたがわたしにむかっておっしゃったままに。

(19)

しかし、主よ、王のところにわたしが行く時に、

あなたの名前は何かと尋ねたら、

そして、耳も聞こえず、口も利かず、じっと立っていると、

非難されずにどのようにに逃げ出したらいいいのか？

神 お前には次のように言うておく…ワタシハアルモノデアル――

「わたしはあるところと同じくある者である。」

もしもお前がささやきもしなければ、一言も口にしないならば、

恥辱からおまえを守ってあげよう。

モーゼ この事については良く理解しました。

主よ、わたしの内にあるすべての力を持ってゆきます。

神 わたしの祝福の内に大胆であれ。

お前を救うものになろう。〔神、退場。〕

(20)

モーセ ああ、愛の主よ、わたしに説教をしてください、

真の言葉を語れるように。

さて、わたしの友だちの所へゆきます、

イスラエルの選ばれた子供たちの所へ、

彼らの心労の慰めを告げるために、――

彼らは危険な目にあっている。

神があなたたちをもっと支え、

多くの陽気さがあなたたちの間にあらんことを！

少年一 ああ、親愛なるモーセ先生！

ぼくたちの陽気さは全部嘆きに変わった。

ここでは、とても酷い目にあっているのです、

王の下で、卑しい者として。

(21)

少年二 程度の差はあれ、ぼくたちは嘆いていいのです。

我らの陽気さを混乱させる者は誰もいない。

〈左二十三〉

でも、ぼくたち全部は同じ親族なので、

このような場合に、神は慰めを送ってくれるでしょう！

モーセ 兄弟たち、嘆くのは止めなさい。

神はその恵みをあなたたちに運んでくださるだろう。

この悲しみから神はあなたたちを救い出し、

皆が喜ぶような楽しい場所に入れてくださる。

なぜなら、これからわたしは王に話して

あなたたちを自由にしてくれるように直ぐにでも試してみよう。

少年一 神があなたに良い旅をお与えになり、

いつもご一緒でありますように！

(22)

モーセ ファラオ王よ、わたしの言うことを良く聞け。

ファラオ おやおや、小僧、どんな知らせを伝えられるのか？

モーセ 神ご自身からわたしは遣わされたのは、

イスラエルの子供たちを連れて帰るためだ。

そして、荒野に行くようにお望みだ。

ファラオ そのとおり、地獄の悪魔へ続く道を行け！

奴が何を意味するかどうでもいいことだ。

良く聞け、奴らはオレの力の内に留まらせる。

そうして、詐欺師よ、お前のために、

奴らは苦しみに投げ込んでやる。

モーセ それならば、神は復讐をされる、

お前とお前の所有する者たちに。

(23)

ファラオ このオレにか？ なんたる餓鬼め！ オレの国から出てゆけ！

オレたちの掟をこのようにして無き物にするつもりか？

言え、杖を手にしたあそこの悪魔はどこから来たのか、

このように我が民をだまして連れ出そうとしている奴は？

騎士一 あそこにいるのがモーセであると請合います、

いつもすべてのエジプトと対立しています。

あなたの父上は偉大なる義務を怠っていると見ております。

今や、できることならあなたを傷つけるつもりでいます。

ファラオ なんたる奴！ いいや、遊びはもう終わったのだ！

不精な奴め、神からの指示を受けるのが遅すぎた！

モーセ 神はわたしの要求をお前に認めさせ
わたしの道を行かせる。

(24)

ファラオ 神がわしに命じると？ 偽りを言うごろつきめ、嘘をつけ！
どんな印をしゃべったか注意して聞いたのか？

モーセ 神は言われた——わたしと神の掟を

軽蔑するなら、

それゆえに、このような具合に、

わたしの杖をお前の目の前に

横にして置き、お前に注意せよと言われた——

杖は一匹の蛇に変わるはずだと。

それから、神の聖なる名前によって、

杖をここに横たえる——

見ろ、陛下どの、言ったとおりのものを目にすることができるぞ。

ファラオ おお、なんと！ 悪魔がお前を溺れさせろ！

(25)

モーセ 神は尻尾を持てとお命じになった、

神の力をはっきりと明かすために。

その後で、神は言われた、失敗もなく

再び杖に戻るはずと。

さあ、陛下どの、ご覧ください！

ファラオ 呪いを込めて言う！

確かにこいつは悪賢い餓鬼だ！

だが、こいつらの男の子は苦しみの中に留まらせる。

お前の悪さをみんながみんな役立てさせないで、

朝と昼の両方ともに

お前のせいで、より悪くなるだろう。

モーセ 神に向かって祈ります、直ぐに復讐を我らに送ってくださいように。

まもなくお前の仕事の上に破壊がもたらされる。

騎士一 ああ、なんとしたことだ、この国は失われてしまった！

我らはもはや命を続けられない。

そのような不幸が朝からずっと続いている。

それを治す薬があるはずがない。

ファラオ なぜそんなに泣くのだ、騎士たちよ？ からかうつもりか？

騎士二 国王陛下、そのような心配事は知られておりません

産まれてくる者のどんな時代にも。

ファラオ その事について簡単に語り、この件はおしまいにしろ。

騎士一 陛下、人と動物のための食料を供給している

水という水が、

すべてのエジプトの国中で、

真っ赤な血に替わりました。

(27)

それはそれは不快で、嫌なもので、

かつては新鮮で、澄んでいました。

ファラオ おお、これは知るも不思議なことだ、

これまで起きたすべての事のうちでも。

騎士二 いいや、陛下、他にもまだあります。

我らを突然にひどく苦しめているものです。

誰もヒキガエルとアオガエルから逃れられません――

身分の上下に関わりなく我ら皆はその毒で殺されています。

騎士一 巨大なブヨに朝も昼も、

いつでも、ひどく咬まれます。

こんなことを仕出かしたのは

我らの大敵モーセであると信じています。

(28)

騎士二 我が主よ、このイスラエルの民がこの国を去らねば、

我らの間には陽気さは決してありません。

ファラオ 行って、奴に言ってやれ、我らは苦しまんぞ、と。

その代わり、奴らをそのまま直ぐに立ち去るようなことはさせない、と。

騎士一 モーセよ、我が主は、約束の地である喜びの国へ

お前の民を引き連れて行く許可を与えた――

これまでの我らの不幸が良くなればという条件で。

モーセ これらの言葉は間違いであることは十分に承知している。

だが、わたしがしかと約束したことは

直ぐに見せてやろう。

王に今まで見たこともない思いがけない不思議な事を見せ、

その過酷さを理解させてやろう。

(29)

〈右二十四〉

騎士二 ああ、主よ、なんと悲しいことか！ 我らは苦痛のあまり死ぬ！

どの扉からも外をあえて見る気がしません。

ファラオ なんだと、このぼろきれ野郎、地獄の悪魔のような声で叫びやがって！

騎士一 なぜなら、以前よりも悪い状態にあります。

巨大なハエがこの国中に飛んでおり、

奴らに咬まれたら、動物は悲鳴を上げ、

どこにでも死んで横たわっています。

騎士二 馬、雄牛、驢馬が、

陛下、突然に死んで倒れています。

ファラオ おお、なんたることだ！ 今のオレと同じように

これまでにこんな大きな被害をこうむった者はいなかった。

(30)

騎士一 陛下、そのとおりです、家畜がこのように見捨てられているのを目にするので

貧しい国だみは大いに苦しんでおります。

ゴッシェンに住むユダヤ人たちはこんな目にあってません――

住み続ける喜びを味わっています。

ファラオ それならば、奴らにこの国を去る許可を与えよう、

この危機が過ぎ去るまでは。

だが、奴らが遠く逃げおおせる前に

奴らに二倍の速さで追いついてやる。

騎士二 モーセよ、我が主はお前の民が

この国から出てゆくことをお許しになっている。

モーセ お前たちの不幸は、今の話が本当でないのならば
もっと増えるはずだ。

(31)

騎士一 ああ、主よ、こんな暮らしを送ることはできません！

ファラオ こんどはなんの悪魔か！ 苦しみがまたもや増えだしたのか？

騎士二 そのとおりです、陛下、我らの頭上に塵が降りかかり、

皮膚に付くと水ぶくれを起します。

男と女のどちらでもライ病になってしまいます。

このように雨と霰に傷つきます。

陛下、山麓のブドウの木々は持ちますまい。

霜と雷電でも同じように打たれて絶滅してゆきます。

ファラオ そうか、では、ゴッシェンで

わしにユダヤ人たちはどうしているのか言えるか？

騎士一　これまで述べたすべての災難を知りません。

われらが感じているような恐怖は少しも感じていません。

ファラオ　少しも、だと？　ぼろきれ野郎め、悪魔め！　奴らが安閑として座っているのに

我らは毎日、疑いと恐れの中で暮らしているのだ。

騎士二　我が主よ、このようなみじめさは永遠に募るでしょう、

モーセにユダヤの民を導かせたままにさせたら。

さもなければ、嘘ではありません、我々は敗れてしまうのです！

されど、奴らがこの国から去ってしまうほうがいいのです。

ファラオ　これらの民は遠くまでは逃がさない、

もしモーセがかつかと怒ったら。

騎士二　そうなれば状態は直ぐにより悪くなりましょう、

奴らが去ってしまうほうがいいでしょう。

(32)

騎士二　我が主よ、新たな災害が間近かに迫って来ています。

ファラオ　そのとおりだ、悪魔め！　これ以上に良くならないのか？

騎士一　激しく荒れ狂うイナゴという虫がこの国中に広がっています。

花も木の葉も残しません！

騎士二 あのような嵐にはどんな人間も耐えることはできません。

それに、もっともっと不思議と思われるのは

この痛ましい日々がずうっと続いていることです――

誰もこれほどの靄を目にできないくらい深い靄です。

騎士一 ああ、我が主よ！

ファラオ

今度はなんだ！

騎士二

強力な疫病が広がってきました――

これは長く長く続きそうです。

ファラオ 悪魔の名前によって聞きただす、疫病だと！

そうであるのなら、我らの誇りも過ぎ越してしまった！

(33)

騎士一 我が主よ、この苦しみは長く続いているので、

モーセに願いどおりにさせなくてはなりません。

奴を行かせましょう。さもなければ、我らのすることはうまくいきません。

遅れることや遅くなることは役に立ちえません。

ファラオ それなら、去ってよいという許可を与えよう、

そのようにしなくてはならない必要があるのだ。

もしかしたら、奴らを迎え入れて、

明日の昼には奴らを絶滅させてやる。

騎士二 モーセよ、我が主がおっしゃるには、

お前の進む道にはきれいに誰もいない。

モーセ 「ユダヤの民に」我らはすでに過ぎ越している、

わたしの友たち、今こそ喜んでくれ。

(34)

行くのだ、さあ、お前たちを行かせよう

お前たちが喜ぶ喜びの国へ。

少年一 しかし、そのまやかしの悪魔の、ファラオ王は、

我らを再び裏切るでしょう。

直ぐにでも我らを滅亡させようと図り、

我らの後に武装部隊を送るでしょう。

モーセ あわてるな——神は我らの友で

すべての我らの敵を負かしてくださる。

それゆえ、わたしと一緒に来なさい——

急ぎなさい、恐れないことだ。

少年二 あの主君が祝福されましように、

苦難から我らを取り出してくれた！

(35)

少年一 そのような友情を我らは決して見つけたことがないが、

すべての危険を恐れます。

紅海は直ぐ近くだ。

そこで、奴隷にされるまで待つことになるのだ。

モーセ わしの杖で道を造ろう、

我らを皆、救うために、と神がおっしゃったとおりに。

海は両端で、

我らが過ぎ去るまで、壁のように立ち上がるはずだ。

さあ、わたしと一緒に来なさい。誰も後に残すな。

〔ココデ、皆ハ海ヲ渡ル。〕

見よ、喜んでもらえる神をついに見つけたのだ！

少年二 おお、主よ、この道はありがたいものです！

これで我らは皆、気楽に行こう。

(36)

騎士一 ファラオ王よ、あの民は行ってしまった！

ファラオ 言ってみろ、新しい苦悩の一つでもあるか？

騎士二 主よ、あのヘブライ人たちは一人残らず行ってしまいました。

ファラオ どうしてそんなことを言うのか？

騎士一 主よ、その話は本当です。

ファラオ おお、なんたる！ 奴らが直ぐにでも捕まってしまうがいいが！

奴らにあの騒乱を急いで後悔させよう。

奴らを殺すまでは止めないぞ。

なぜなら、奴らを海まで追いかけて行くのだ。

軽二輪戦車を急いで追撃させ、

心して、わしの後を激しく付いてまいれ。

騎士二 主よ、準備完了です、我らは喜び勇んでいます――

あなたのご命令にいつでも従えます。

(37)

騎士一 主よ、あなたが出される命令に用意が整っています――

われらの肉体は戦闘に投げ出します。

すべてが打ち倒れ、

恐れることなく全員が死んでしまうまで止めません。

ファラオ マオメットに向かって心を高く上げろ！

我らが必要とした時には我らの傍にいてくださるだろう。

助けに來い、乞食服の悪魔、われらは海で溺れてしまうだろう！

どんなことをしても我らはもう死んでしまう。「コノ時、皆ハ海デ溺レル⁽³⁾」。

モーセ 今や、我々はすべての苦しみからの解放を勝ち取った。

そして、海からも救われた。

神に向かって賛美を与えよう。

今はもう、陸地に上るだけだ。

(38)

少年一 高きにおられる神を愛し、

この不思議な出来事を永遠に伝えよう。

ファラオ王は溺れてしまったかもしれない、

主エマニエルを愛しましょう。

モーセ 「天よ、見よ」と言え。「地よ、我らの言葉を聞け！」

それから、わたしが語る言葉を。

雨や露が地上に降り、

そのおかげで、水と植物と木々が非常に良く与えられるので、

神の威厳にたいして愛を捧げよう。

神の行いは為され、神の道は正しい、

三位一体の神を尊び

神にたいして名誉と美徳を褒め称えよう。アーメン。

〔ココニ、「ファラオ」が終わり、「オーガスタス皇帝」が始まる。〕

〔註釈〕

(1) アナクロである。主教制度ができたのは、紀元後〇世紀頃。

(2) (3) 舞台の大道具装置はどのようになるのか興味深い。